

### 第3章 仮説の検証

#### 第1節 「社会教育担当者と団体等との関係が良いほど、活動する団体、事業数が多く、実施内容も多岐にわたる」について

ここでは、社会教育担当者と団体等の関係を以下の図表のとおり「関係が良い団体の数」を尺度とし、団体の数が平均以上となっている市町村を「関係が良い団体が多い」とし、かつ「社会教育担当者と団体等との関係が良い」と仮定し検証を行う。

活動する団体の数は、【図表 2-2-2-5「社会教育担当者と地域づくりに関係する団体等との関係（問4及び問5）」と「自治体内で地域づくりの活動をしている団体の数の平均（問1-1）」のクロス集計】（p.38）を見ると、「子ども会やPTA、趣味・学習サークル等、構成員の学習・向上を主とする団体」と「青年団体、女性団体等、構成員の学習・向上とともに対外的な社会教育事業を行う団体」で「関係が良い団体が多い」の方が「活動する団体の数が多い」という有意差のある結果（t検定）が得られたが、他の項目においては大きな差は無く、「関係が良い団体が少ない」の方が平均値の高い項目もあった。このことから、「子ども会やPTA、趣味・学習サークル等、構成員の学習・向上を主とする団体」と「青年団体、女性団体等、構成員の学習・向上とともに対外的な社会教育事業を行う団体」に関しては、社会教育担当者と関係が良いと地域活動を実践する団体が多くなる傾向があるといえる。

事業数の平均は、「関係が良い団体が多い」の方が「関係が良い団体が少ない」より1.98件多かった。

【図表 3-1-1】「地域づくりの担い手育成事業の数（問3-1）の平均」と「社会教育担当者と地域づくりに関係する団体等との関係（問4及び問5）」のクロス集計

	関係が良い団体が多い (n=80)	関係が良い団体が少ない (n=99)
地域づくりの担い手育成事業の数の平均	7.83 件	5.85 件

実施内容は、活動内容別の事業数で見ると「関係が良い団体が多い」が「防災訓練や防犯・交通安全、清掃などの地域活動に関わる個人・団体等対象」以外の項目で、事業数が多かった。

【図表 3-1-2】「活動内容別地域づくりの担い手育成事業の数（問3-1）の平均」と「社会教育担当者と地域づくりに関係する団体等との関係（問4及び問5）」のクロス集計

	関係が良い団体が多い (n=80)	関係が良い団体が少ない (n=99)
防災訓練や防犯・交通安全、清掃などの地域活動に関わる個人・団体等対象	0.50 件	2.67 件
高齢者の見守りや買い物支援などの社会福祉活動に関わる個人・団体等対象	0.26 件	0.09 件
スポーツや学習の支援や指導などに関わる個人・団体等対象	2.39 件	0.83 件
祭りなどの地域行事への参加、歴史・文化の保存・継承活動に関わる個人・団体等対象	1.78 件	0.73 件
情報発信活動、地場産品の開発、観光局の受け入れ、地域の活性化などに関わる個人・団体等対象	0.58 件	0.18 件
その他の活動に関わる個人・団体等対象	2.65 件	1.12 件

以上のことから、「社会教育担当者と団体等との関係性」と「活動する団体、事業数等」との関係については、次のように言うことができる。

- 社会教育担当者と団体等の関係が良いと「子ども会や PTA、趣味・学習サークル等、構成員の学習・向上を主とする団体」と「青年団体、女性団体等、構成員の学習・向上とともに対外的な社会教育事業を行う団体」において、地域づくりの活動を実践する団体が多くなる。他の項目の団体等においても、北海道では、ほとんどの団体等で多くなる傾向が見られる。
- 社会教育担当者と団体等との関係が良いと、北海道では、団体数が多くなり、多様な方々を対象とした事業内容を展開できる傾向が見られる。

## 第2節 「『学び』と『活動』のつながりの構築の工夫が多いほど、活動する団体、事業数が多く、実施内容も多岐にわたる」について

「つながりの構築の工夫」については、以下図表のとおり「つながりの構築の工夫の数」を尺度とし、その数の平均以上を「工夫が多い」、平均以下を「工夫が少ない」とし検証する。

活動する団体の数は、【図表 2-2-2-6 「『学び』と『活動』のつながりの構築の工夫（問6）」と「自治体内で地域づくりの活動をしている団体の数の平均（問 1-1）」のクロス集計】（p.38）を見ると、「自治会（町内会）」で「関係が良い団体が多い」方が「活動する団体の数が多い」という有意差のある結果（t 検定）が得られた。「子ども会や PTA、趣味・学習サークル等、構成員の学習・向上を主とする団体」では、18.2 ポイントの差があった。他の項目においては大きな差は無く、「工夫が少ない」方が平均値が高い項目もあった。このことから、「自治会（町内会）」においては、つながりの構築の工夫の数が多いと地域活動を実践する団体が多くなるといえる。

事業数の平均は、「工夫の数が多い」の方が「工夫の数が少ない」より 3.46 件多かった。

【図表 3-2-1】「地域づくりの担い手育成事業の数（問 3-1）の平均」と「『学び』と『活動』のつながりの構築の工夫（問 6）」のクロス集計

	工夫の数が多い(n=83)	工夫の数が少ない(n=96)
地域づくりの担い手育成事業の数の平均	8.59 件	5.13 件

実施内容は、活動内容別の事業数で見ると「スポーツや学習の支援や指導などに関わる個人・団体等対象」の事業で「工夫の数が多い」の方が「工夫の数が少ない」より 2.10 件多く、有意差がある結果（t 検定）となった。他の項目については、大きな差は認められなかった。

【図表 3-2-2】「活動内容別地域づくりの担い手育成事業の数（問 3-1）の平均」と「『学び』と『活動』のつながりの構築の工夫（問 6）」のクロス集計

	工夫の数が多い(n=83)	工夫の数が少ない(n=96)
防災訓練や防犯・交通安全、清掃などの地域活動に関わる個人・団体等対象	0.55 件	2.69 件
高齢者の見守りや買い物支援などの社会福祉活動に関わる個人・団体等対象	0.20 件	0.14 件
スポーツや学習の支援や指導などに関わる個人・団体等対象**	2.65 件	0.55 件
祭りなどの地域行事への参加、歴史・文化の保存・継承活動に関わる個人・団体等対象	1.84 件	0.64 件
情報発信活動、地場産品の開発、観光局の受け入れ、地域の活性化などに関わる個人・団体等対象	0.63 件	0.13 件
その他の活動に関わる個人・団体等対象	2.90 件	0.85 件

以上のことから、『学び』と『活動』のつながりの構築の工夫の数」と「活動する団体、事業数等」との関係については、次のように言うことができる。

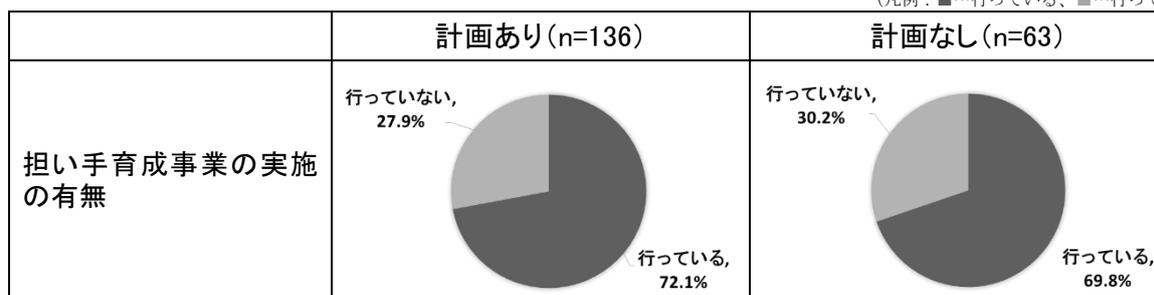
- 「学び」と「活動」のつながりの構築の工夫が多いと、「自治会（町内会）」において地域づくりの活動を実践する団体が多くなる。他の項目の団体等においても、北海道ではほとんどの団体等で多くなる傾向が見られる。
- 「学び」と「活動」のつながりの構築の工夫が多いと「スポーツや学習の支援や指導などに関わる個人・団体等対象」の事業数が多くなる。他の項目の対象事業においても、北海道では事業数が多くなる傾向が見られる。
- 「学び」と「活動」のつながりの構築の工夫が多いと、北海道では多様な方々を対象とした事業内容を展開できる傾向が見られる。

### 第3節 「事業・業務の精選を行っている教育委員会ほど地域づくりの担い手育成を目的とした事業が展開されている」について

ここでは、「中・長期の生涯学習推進計画・社会教育計画を策定している教育委員会は、計画策定のタイミングで事業・業務の精選を行っている」と仮定し、今回の調査に当センターで把握している中・長期の生涯学習推進計画・社会教育計画の策定状況（平成28年度）を加えクロス集計したものをもとに検証する。

教育委員会による地域づくりの担い手育成を目的とした事業の展開に関する「中・長期計画の策定の有無」による差は、「計画を策定している教育委員会」が「計画を策定していない教育委員会」より、2.3ポイント高かった。

【図表 3-3-1】「問3 担い手育成事業の有無」と「中・長期の生涯学習推進計画・社会教育計画の有無」のクロス集計  
（凡例：■…行っている、■…行っていない）



このことから、「事業・業務の精選を行うこと」と「地域づくりの担い手育成を目的の一つとした事業の展開」の関係については、次のように言うことができる。

- 北海道では、事業・業務の精選を行っている教育委員会は、行っていない教育委員会より、教育委員会による地域の担い手育成事業を行う傾向が見られる。

担い手育成事業の有無の差が計画策定の有無との相関において僅差である。改めて、中・長期の生涯学習推進計画・社会教育計画を策定することの重要性について考えていきたいところである。